偶然発見され、鹿の食害から守られている。

矢ばなの里のカタクリ群生 (福井県大野市矢)

矢ばなの里は、天空の城で有名な、越前大野城の北2㎞程の山裾にある。ここは大野盆地で、里の高台からは、雪を戴いた日本百名山の一つ、荒島岳がよく見える。

「矢ばな」とは、矢花で、大野市矢集落が花の里として整備された事に由来する。矢集落に無住となった寺があり、あまりの荒廃に見かねた地元の人々が、力を合わせて寺周辺を整備した。これがきっかけで、さびれいく故郷を美しく保ちたいとの機運が高まった。そして、耕作放棄地に桜を植える事業を展開したのである。これが、2005年の事。ところが、2007年の春、桜が咲く頃に、偶然近くの山斜面にカタクリの群生があるのを発見した。あまりに美しいので、地主さんの協力を得て、この山も整備し、カタクリの里を計画したのである。

元々この山は、薪炭の原木山であった。ところが、戦後需要がなくなり放置されていたのである。山は荒れていて、大木が各所に倒木。これを重機を導入してチップに加工、床に敷いた。日当りを良くするために、雑木を刈り、遊歩道を整備した。その甲斐あって、数年後には群生が大きく広がり、訪れる人が増え始めたのである。花の季節には、地元の人々がボランティアとなって「カタクリ祭り」を毎年開催している。

駐車場は車十台程。小さいビジターセンターにこれまでの経過等やカタクリの写真が展示されている。入口で協力金300円を支払い、桜の咲く歩道を進むと、すぐ山の斜面にカタクリの群生が見えてくる。実に見事な群生である。緩やかな山の斜面を登るが、一面のカタクリの花に、花見客が感動の声をあげていた。外国からの花見客もいて、今では国際的になっている。

おおむね200m四方の山斜面に、二本の尾根筋があり、これに沿ってカタクリの群生が広がっている。遊歩道は、これらを回遊するように付けられていて、花を下から上から眺められるような設計。実に工夫されたカタクリ園である。

半日程の撮影後、地元の人々にお話を伺った。笑顔で話される人々を見て、守るものがあると言う事は、実に幸せな事だと実感した次第である。

※矢ばなの里は、ライン線上にあり、防鹿ネットを張って守っている状態である。ネットを張らない所では、壊滅状態になって行く。鹿の食害はそれ程深刻なのである。

里山保全で守られた自然

カタクリとギフチョウ (石川県加賀市勅使町)

カタクリとギフチョウはセットである。カタクリの群生地に出向くと、必ずギフチョウが飛んでいる。ところが、ギフチョウが卵を産みつける植物は、カンアオイである。幼虫はカンアオイの葉を餌にして成長して蝶になる。むしろ、カンアオイとギフチョウがセットなのであるが、しかし、目にするのはカタクリの花がある場所。すなわち、カンアオイとカタクリ等がある場所にしか、ギフチョウは生育しない。里山がどんどん失われていく昨今、ギフチョウも個体数を激減していて、東京都では絶滅したといわれている。

近くに、集落の人々が里山を保全したカタクリの群生地がある。規模は大きくないが、カタクリの群生そのものが全く無くなってしまった昨今、これでも珍しい光景なので、近隣から多くの人々が、解りにくい場所をわざわざ探してやってくる。失われつつある自然が恋しい人の、何と多い事か。

ここでは、無数と言っていい程のギフチョウが乱舞している。自然を無くしたのも人であるが、復活させるのも人なのである。